

# 第68回景気動向調査 (2019年下半年期)

マレーシア日本人商工会議所(JACTIM)  
2020年2月

注1: JACTIM会員企業557社に、2019年8月13日～10月25日にかけて、2019年下半年期の景気動向を中心に質問した内容について集計している。296社(内訳: 製造業191社・65%、非製造業105社・35%)から回答を得た。回答率は53%となる。

注2: Web上での調査票配布・回収を行っている。

注3: マレーシア日本人商工会議所(JACTIM)では、年に2回(上半期と下半期)にJACTIM会員企業に景気動向調査を実施している。

# 2019年下半期の景気動向【要旨】

- ・景気DIは、マイナス29.9ポイントとリーマンショック以降で最低水準となった。来期は若干の改善が予想されている。
- ・従業員数はこれまでの不足から過剰に転じ、来期も過剰企業割合は伸長予想。
- ・業界の需給判断DIは2013年以降マイナス33.1ポイントと、最も供給超過の結果となった。

## (1) 景況感は3期連続で下落、リーマンショック以降で最低水準

改善となった前回予想に反し、2018年上期から続く3期連続での下落となり、マイナス29.9ポイントとリーマンショック以降で最低値となった。主な理由としては、米中貿易摩擦の影響、売上・利益の減少、半導体市況の低迷、人件費の高騰等の回答があった。

## (2) 従業員数はリーマンショック以降、初めて「過剰」となった

これまで従業員不足が続いていた従業員数DIは1.4ポイントの過剰に転じた。依然として不足とする企業の割合は一定程度あるものの、適正から過剰の割合が増えたことが要因。

## (3) 業界の需給判断DIが2013年以降最低水準

業界の需給判断DIについても2013年以降マイナス33.1ポイントの最低値を記録し、供給超過がさらに拡大している。来期予想は改善とされているが注視が必要。

## (4) 米国、中国経済動向、米中貿易摩擦の与える影響が増加

マレーシア、日本、ASEANの経済動向の影響を受けるとする割合が減少した一方、米国、中国経済動向、米中貿易摩擦が業績に与えるとする割合は増加した。

業況判断DIの推移

アンケート実施期 (回答社数)	①良い(社)	②悪い(社)	DI値 (%)
2017年上期 (148社)	21	34	-8.8
2017年下期 (191社)	47	43	2.1
2018年上期 (182社)	38	25	7.1
2018年下期 (250社)	47	60	-5.2
2019年上期 (285社)	43	97	-18.9
2019年下期 (291社)	39	126	-29.9
2020年上期予測 (291社*)	34	113	-27.1

従業員DIの推移

アンケート実施期 (回答社数)	①過剰(社)	②不足(社)	DI値 (%)
2017年上期 (150社)	14	26	-8.0
2017年下期 (191社)	25	40	-7.9
2018年上期 (182社)	15	38	-12.6
2018年下期 (251社)	19	38	-7.6
2019年上期 (283社)	35	40	-1.8
2019年下期 (287社)	53	49	1.4
2020年上期予測 (289社*)	55	38	5.9

需給判断DIの推移

アンケート実施期 (回答社数)	①需要超過(社)	②供給超過(社)	DI値 (%)
2017年上期 (101社)	16	17	-1.0
2017年下期 (137社)	18	25	-5.1
2018年上期 (174社)	22	34	-6.9
2018年下期 (236社)	30	49	-8.1
2019年上期 (270社)	16	84	-25.2
2019年下期 (269社)	11	100	-33.1
2020年上期予測 (269社*)	17	87	-26.0

資料：JACTIM「景気動向調査」

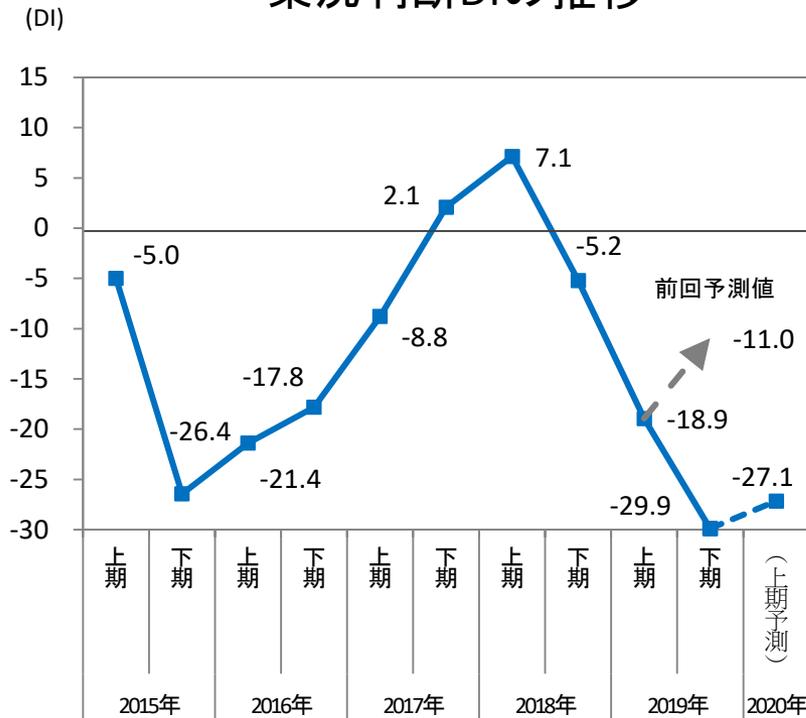
注：DI値 = (「①」とした企業数 - 「②」とした企業数) / (回答企業数) × 100

\*2019年下期アンケートにて2020年上期の予測についていただいた回答数

# 1. 2019年下半期の景況(業況、利益状況)

- ・景気DIは、マイナス29.9ポイントと2015年下期を下回る結果となった。前期からはマイナス11.0ポイント下落し、3期連続での下落となった。
- ・利益水準DI及び利益率DIについても、前回予想を下回り、下落傾向が継続。
- ・この背景として、米中貿易摩擦の影響、売上利益の減少、半導体市況の低迷、人件費の高騰を理由とする回答が多かった。

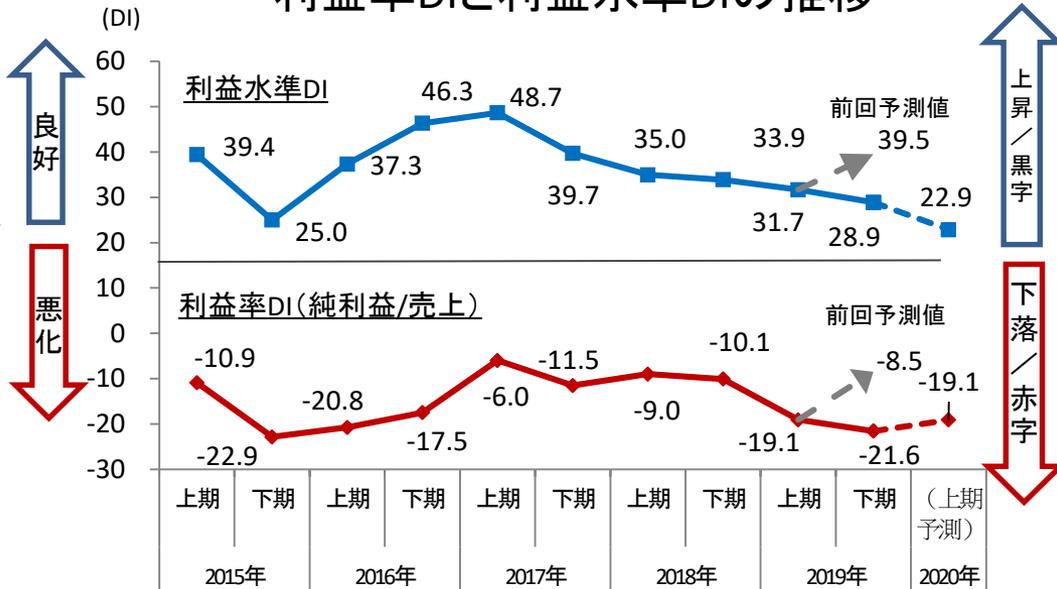
## 業況判断DIの推移



資料: JACTIM「景気動向調査」

注: 業況判断DI = (「よい」とした企業数 - 「悪い」とした企業数) / (回答企業数) \* 100

## 利益率DIと利益水準DIの推移



資料: JACTIM「景気動向調査」

注(1): 利益率DI = (「上昇」とした企業数 - 「下落」とした企業数) / (回答企業数) \* 100

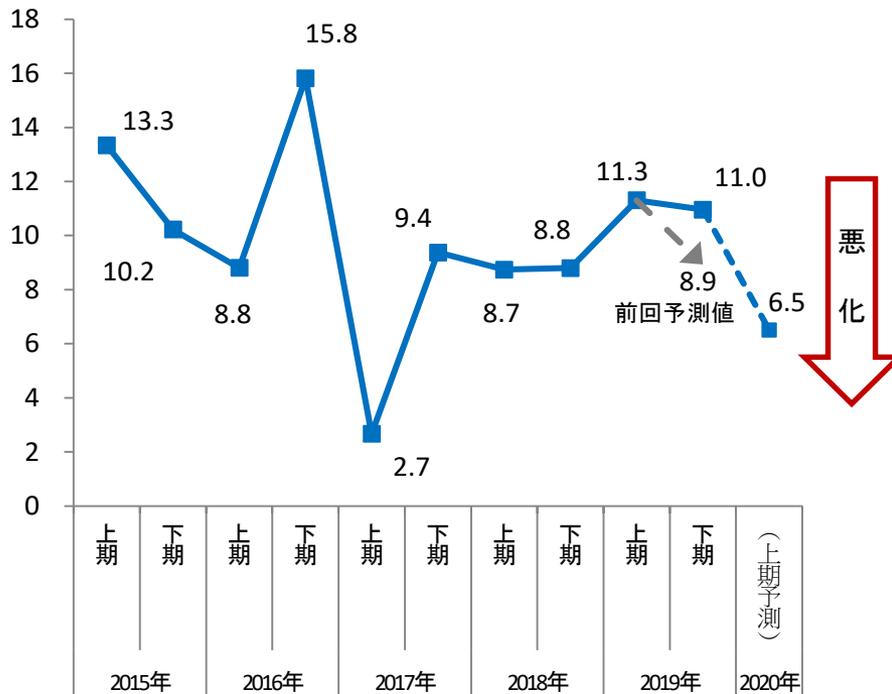
注(2): 利益水準DI = (「黒字」とした企業数 - 「赤字」とした企業数) / (回答企業数) \* 100

Copyright © 2020 JACTIM. All rights reserved.

## 2. 2019年下半期の景況(資金繰り、従業員数)

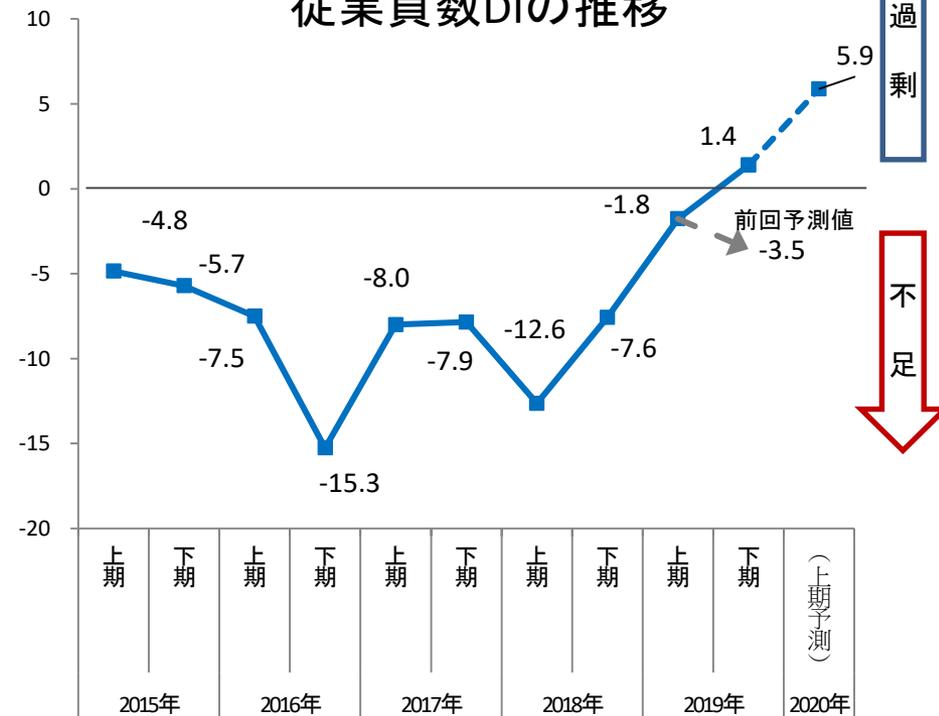
- ・資金繰り状況DIは、前回の下落予想に反し、ほぼ横ばいにて推移。一方、来期は下落が予想されている。
- ・従業員数DIは3期連続上昇し、1.4ポイントとリーマンショック以降、初めてプラスに転じた。  
来期も上昇傾向が続き、約2割の企業が過剰と予想している。

(DI) 資金繰り状況DIの推移



資料: JACTIM「景気動向調査」  
注: 資金繰りDI = (「楽」とした企業数 - 「苦しい」とした企業数) / (回答企業数) \* 100

(DI) 従業員数DIの推移

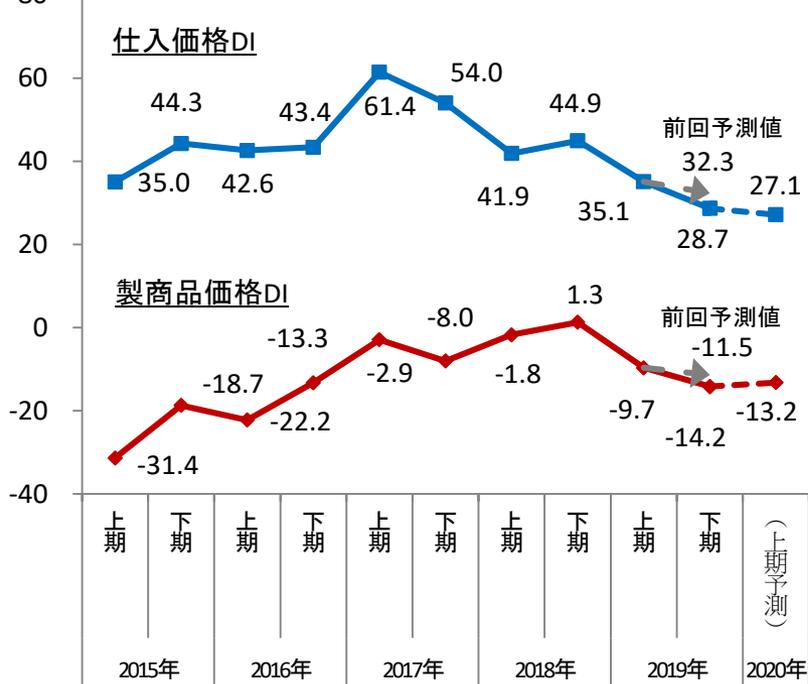


資料: JACTIM「景気動向調査」  
注: 従業員数DI = (「過剰」とした企業数 - 「不足」とした企業数) / (回答企業数) \* 100

# 3. 製造事業者の景況

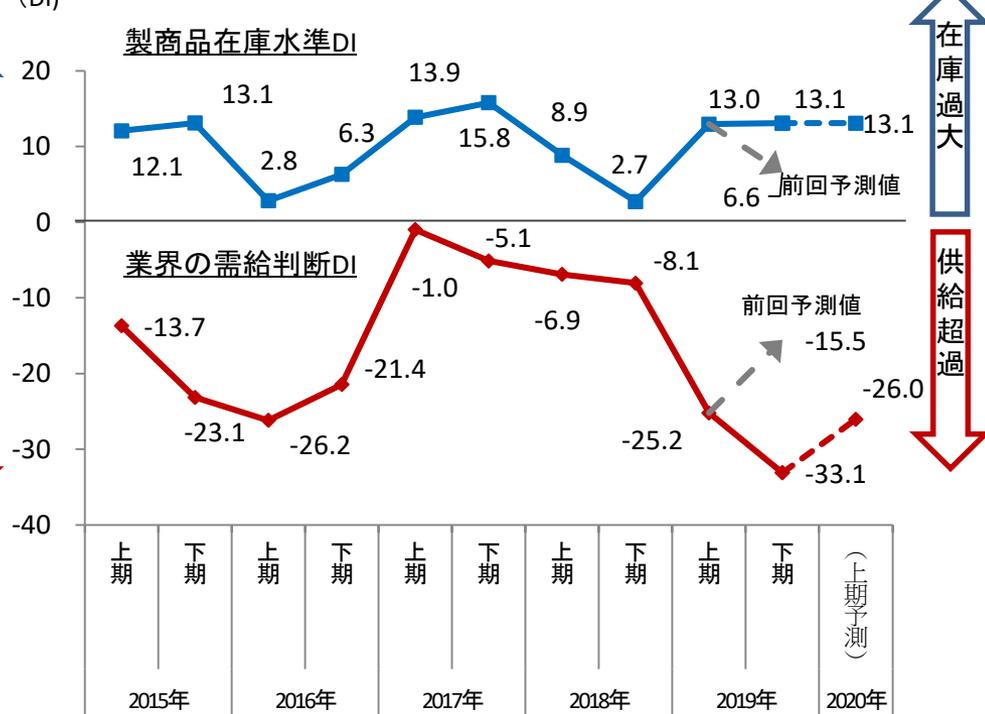
- ・仕入価格DI及び製商品価格DIは共に2期連続で下落。来期は共に横ばいの見通しとなった。
- ・製商品在庫水準のバランスは前期同水準レベルで在庫過大状態が続き、来期予想もそのトレンドは不変。また、業界の需給判断DIは、2013年以降最低値を記録。但し、来期は改善が予想される。

(DI) 製商品価格DIと仕入価格DIの動向



上昇  
下落

(DI) 製商品在庫水準DIと業界の需給判断DI



在庫過大  
供給超過

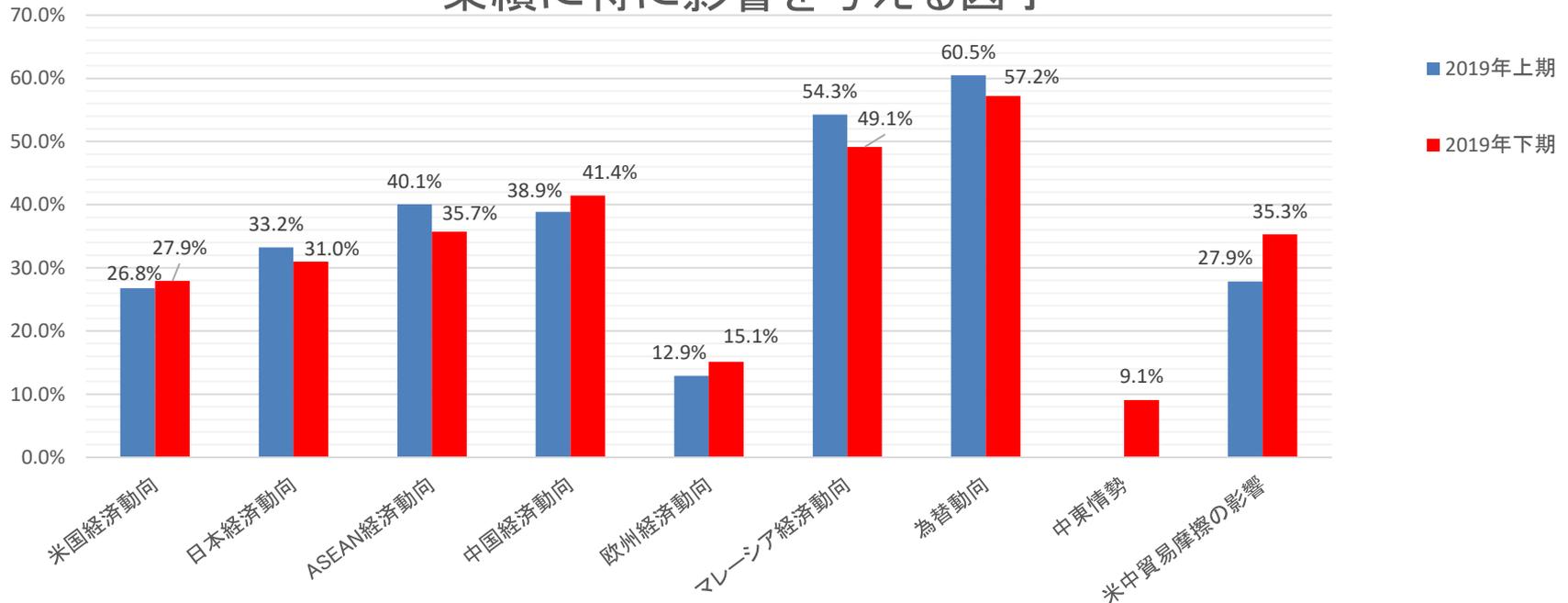
資料: JACTIM「景気動向調査」  
 注(1): 製商品価格DI=(「上昇」とした企業数-「下落」とした企業数)/(回答企業数)\*100  
 注(2): 仕入価格DI=(「上昇」とした企業数-「下落」とした企業数)/(回答企業数)\*100

資料: JACTIM「景気動向調査」  
 注(1): 製商品在庫水準DI=(「過大」とした企業数-「不足」とした企業数)/(回答企業数)\*100  
 注(2): 業界の需給判断DI=(「需要超過」とした企業数-「供給超過」とした企業数)/(回答企業数)\*100  
 Page-4 Copyright ©2020 JACTIM. All rights reserved.

## 4. 業績に影響を与える要因

- ・為替動向、マレーシア経済動向の影響は受けるとする回答は依然として高い水準にあるものの、前期比では減少。一方で、米国経済動向、中国経済動向、米中貿易摩擦の影響が増加した。
- ・日本、ASEANの経済動向の影響を受けるとする回答は共に減少した。新しく追加された因子項目、中東情勢が与える影響は相対的に限定的な結果となった。

### 業績に特に影響を与える因子



資料: JACTIM「景気動向調査」